

2009

カテ室残業時間の減少化を目指して

¹岡村記念病院

米山 美和子¹、三浦 千鶴子¹

当院は昨年度約1400件のCAG、約750件のPCIを行っている。しかし、カテ室は2部屋しかなく、このような件数のカテを行うには時間外もやむを得ない。しかし、病院経営上やスタッフの疲労度を考えると長時間のカテ室稼働は推奨できない。そこで、カテ室担当看護師が出来ることは何かを検討・実施する事でカテ室稼働時間の短縮化を図ろうとした試みを報告する。当院はカテ室入出後に末梢ルートを確認するが、それを可能な範囲で病棟に依頼する事で、穿刺にかかる時間の短縮化を図った。また、一泊二日でカテを行う患者は、10時に入院してから出棟するまでに看護師だけでなく薬剤師をはじめ様々なスタッフが介入し、加えてルート確保をする事は、病棟にとっては困難なことであるとの意見もあり、その実際を把握することで病棟との連携を図った。また、カテ室に患者入出後、医師が手技を始めるまでの時間に着目し、その時間を医師毎にデータ化する事で、短縮可能な時間を見出した。加えて、カテ室で末梢ルートを確認する場合に要する時間を算出し、現状把握と改善点を描出した。結果として、カテ室でのルート確保に要する時間の中央値は3分であり、医師が手技を始める時間内にルート確保できている事が明らかとなった。また、一泊二日でカテを行う患者の病棟でのルート確保率は58%であり、カテ室稼働時間の短縮に関与できたと考える。しかしながら、病棟スタッフのスキルの個人差などから病棟でのルート確保が現在困難となり、また、カテ一件に要する時間や一日のカテ件数など今後の課題も多いと考える。